

障害者雇用の現状の課題と支援体制についての調査研究
～特例子会社・農福連携の支援者へのインタビュー調査から～

藤田さより¹⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学²⁾

【はじめに】 日本の企業における障害者雇用者数は毎年革新的に伸び続けている。障害者雇用が進む中で注目されているのが農業分野である。後継者不足に悩む農家と就労場所が不足している障害者の就労支援を行う福祉分野が連携し、双方の課題を埋める農福連携事業の取り組みが進んでいる。令和元年より農林水産省は、農福連携等推進ビジョンを掲げ、国を挙げて農福連携を推進していく方向性が示されている。一方で農福連携を推進する中で、支援体制の不足や受け入れ農家の不足などさまざまな課題も報告されている。そこで今回、障害者の雇用の受け入れを実践している農家にインタビューを行い、農業分野での障害者雇用のメリットと現状の課題、支援体制について明らかにしたいと考えた。これらを明らかにすることで農福連携の推進のためのてがかりを明らかにしたいと考える。

【方法】 今回の研究対象者は、障害者雇用（雇用方法は問わない）を実践している農家に研究依頼を行い、研究の目的・方法に同意を得られた方とする。研究方法は、障害者雇用を行う上でのメリット・デメリットなどを尋ねる半構造化面接を実施する。インタビューは許可を得て、ICレコーダに録音する。分析方法は、得られたデータをすべて逐語録におこし、KHコーダーを用いたテキストマイニング分析およびSCAT分析を行った。

【結果】 5名の専業農家に協力を得た（1名は株式会社による農業、4名は専業農家）。共起ネットワーク分析の結果、「障害者が農家で働くことは変化し、可能性を広げる」、「健常者と障害者が共に支え合い働く場、共生社会の実現」、「農家・障害者双方の成長・活性化」、「能力にみあった賃金の設定の課題」4つのテーマ抽出された。SCAT分析の結果、農福連携により農家自身に、安定した人材の確保に繋がり、それにより収入自体も向上した。さらに障害者雇用の継続のために生産物を増やし多様化し彩り豊かな農園となった。だれもが安全にできる作業環境に改善し、安全性が向上した。わかりやすい作業手順・方法に作業を整理したことで結果的に全体の作業効率の向上に繋がった。障害者自身は、体力の向上、就労意欲の向上、賃金の向上により生活の変化、自信の獲得、社会参加、経済的な自立、QOLの向上などの改善がみられた。課題として、障害者の能力に見合った適切な賃金設定についてあげられた、

【考察】 今回の結果より、農福連携により障害者だけでなく、農家側や農家で働く他のスタッフ、職場環境や収益などにも効果的な影響を与えていることが明らかとなった。これらの効果の背景には障害者の雇用を継続するための農家自身の様々な職場改善などの工夫や努力があった。共通した課題として「適切な賃金設定の課題」があった。今後、現状の課題解決にむけた研究を進めると共に、今回の研究により明らかになった農福連携のメリットや効果的な支援方法・環境整備を農家に広く発信することで農福連携の発展に繋がたいと考える。

倫理審査	■承認番号（ 23020 ） □該当しない
利益相反	■なし □あり（ ）